

常陸大宮



■ 主な内容 ■

- P2～3 平成23年夏 常陸大宮市の夏祭り
- P4～7 常陸大宮市行政改革の取り組み
状況を報告します
- P8～10 平成22年度常陸大宮市人事行政の
運営等の状況の公表
- P18 人面付土器“いずみ”修復中！①

常陸大宮市山方地域のそば畑
白く可憐に そして力強く

7月23日 祇園祭



子ども神輿が練り歩きました

平成23年 常陸大宮市の夏祭り

常陸大宮市の夏祭りが、早期復興の願いを込めて、各地域で元気に開催されました。残念ながら美和地域の星まつりは雨天等の理由で中止となりましたが、地域の方々が協力して市内の夏祭りを盛り上げました。

写真と共に振り返ります。

8月6日 第2回七夕まつりin緒川



昨年、20数年ぶりに復活した上小瀬宿通りの七夕まつり。手作りの七夕飾りが通りに飾られました

8月6日 第59回長倉七夕まつり



長倉宿通りに飾られた七夕飾り。今年で59回目を数えます



ひんやりさっぱりおいし～。
やすらぎの里の流しそうめん

8月7日 やすらぎの夏祭り



魚のつかみどり。放流されたのは、金魚・ニジマス・イワナ・ヤマメ

8月20日 第28回あゆの里まつり



久慈川河川敷で打ち上げられた花火



跳ねて逃げるあゆと逃げるあゆを捕まえようとする子どもたち

8月20日 第6回あきない祭2011 盆踊り



ヒップホップダンスを披露



最後に行われた抽選会はステージ前が人でいっぱい！
ひたまるもゲスト出演

8月27日 第23回美和ふるさと祭り



大量のまきもちにステージ前にはたくさんの
人が集まりました



雅華組のよさこいソーラン踊り。
その横で力強く宙を舞うよさこい旗

常陸大宮市行政改革の 取り組み状況を報告します

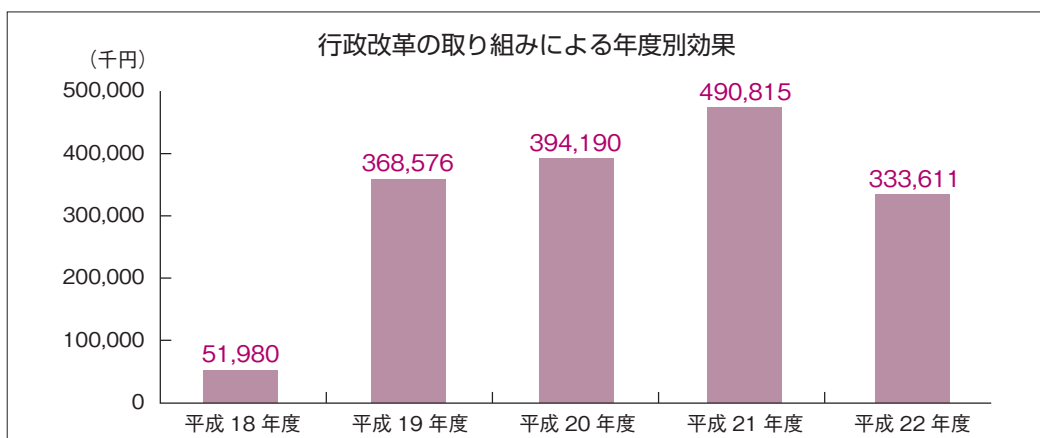
市では、常陸大宮市行政改革大綱（平成18年度から平成22年度）を策定し安定した財政基盤の確立を図るとともに、市民に開かれた効率的な行政運営体制の実現に向けて、行政改革に取り組んできました。

この取り組みでは、「効率的な行政運営の推進」「健全な財政基盤の確立」「市民参加による協働のまちづくり」の3つの推進項目を基本方針とし、5カ年の効果額として16億3917万2千円の成果がありました。主な取り組み内容について、お知らせします。

※ 効果額は、経費節減額と遊休地処分等による収入増加額の合算で算出しています。



行政改革の取り組みによる年度別効果



推進項目1

効率的な行政運営の推進

地方分権時代を迎えた地方行政は一層の効率化と透明性を要求されています。限られた財源の中で、新たな行政課題や社会情勢の変化に対応する必要があるため、経費で最大の効果を上げるために、事務事業の見直しを行い、簡素で効率的な行政運営を推進しました。

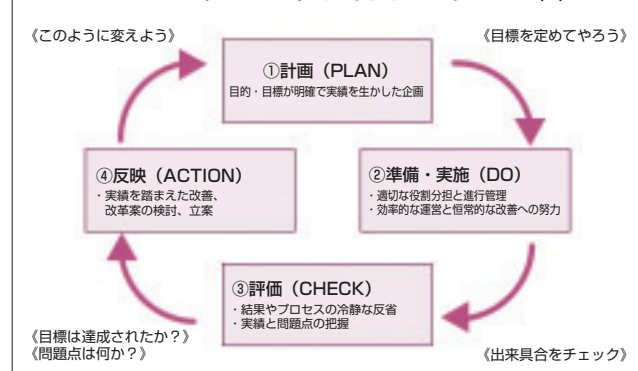
● 取り組み事項

事務事業のコスト縮減

○現在実施している事務事業が効率的に行われているのか、市民が必要としている事務事業なのか、事務事業の見直しと市民への説明責任を遂行するため、平成19年度から事務事業評価制度を導入しました。また、平成21年度からは、行政評価外部評価委員会を設置し、第三者の目で客観的な評価・判断を行い、事務事業の見直しを進めました。

○予算編成時の経常的経費（時間外勤務手当、消耗品費、食糧費、旅費等）の縮減、日常業務における

PDCAマネジメントサイクルのイメージ図



両面コピーの徹底、昼休みの消灯など、経費の節減に努めました。

○平成19年3月に策定した地球温暖化対策実行計画に基づき、市役所の事務事業活動に伴う温室効果ガスの排出抑制に努めました。また、平成22年5月にエコアクション21の認証を取得し、環境対策及び省エネによる経費節減を図りました。

○公共工事の実施にあたっては、技術革新に伴う新たな施工方法を導入し、設計積算業務においては電算システムを活用して、コスト削減

減に取り組みました。

○公用車見直し計画に基づき、各課等の車両の配置台数の適正化を推進し、公用車の集中管理化や処分を行いました。

民間委託等の推進

○学校給食業務を大宮、山方、御前山及び美和学校給食センターに集約し、市が行うよりも経済効率に優れ、サービス水準の向上が見込める大宮学校給食センターの調理業務について、平成20年度から民間委託を実施しました。



▲大宮学校給食センター

指定管理者制度の活用

○公の施設を効果的・効率的に運用するため、施設の現状を再確認し、導入可能な51施設に指定管理者制度を導入しました。

また、指定管理施設の終期を迎えた施設の更新を推進しました。



▲平成23年4月から指定管理者制度が導入された大宮地域の西部総合公園

市単独補助金等の見直し

○平成18年度に補助金等見直し要領を施行し、補助金の交付要綱に終期3年を設定し、補助金等審議会を開催して、単独補助金の縮減を図りました。

附属機関の見直し

○常陸大宮市男女共同参画計画に基づき、各種審議会等への女性委員の増員を推進しました。

目標

30・0%

平成22年4月1日現在

25・4%

受益者負担の適正化

○徴収嘱託員を活用して、水道使用料徴収率の向上を図るとともに、自主財源の確保と受益者負担の適正化を推進しました。

第三セクター及び公社等の整理統合

○土地開発公社のあり方について検討を行い、平成22年3月議会定例会で、解散議決を得て、平成22年8月に清算終了登記を実施しました。

組織・機構の見直し

○事務事業の執行に最も適した柔軟な体制をとることによって、課内職員の動態化及び協働性を確保し組織のスリム化を図るため、平成20年4月から係制を廃止して、グループ制を本格導入しました。

義務教育施設等の適正配置の推進

○平成20年7月に義務教育施設適正配置実施計画を策定し、過小規模校及び小規模校となることが予想される小学校については、適正規模を満たすよう施設規模や地理的条件などを考慮し、編入・統合を実施しました。

【平成22年4月1日現在】

(編入)

小場小学校を村田小学校に編入

(統合)

玉川小学校と塩田小学校を統合

↓ 大宮北小学校

檜沢小学校と隆郷小学校を統合

↓ 美和小学校

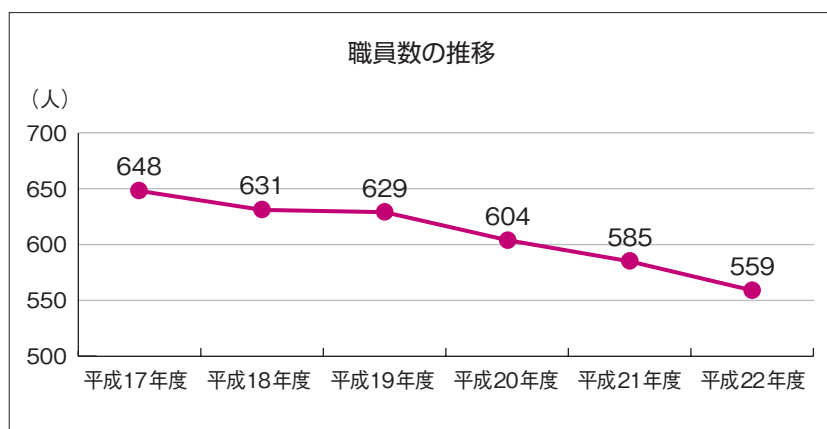
小瀬小学校と八里小学校を統合

↓ 緒川小学校



職員数の削減及び定員適正化の推進

○総務省が定める定員モデル及び類似団体等職員数と比較しながら定員の適正化を推進しました。集中改革プランでは、平成17年4月1日の職員数648人を平成22年4月1日で583人以下(65人削減)にすることを目標に取り組み、実績は職員数559人(89人削減)と目標を上回る達成となりました。



人材育成の推進

○県との人事交流を推進するとともに、執務を実施する上で必要となる専門的な知識を習得するため、茨城県自治研修所研修等に参加しました。

情報基盤づくり

○携帯電話基地局の整備促進や地上デジタル放送に伴うテレビ自主共聴組合との調整、通信事業者の参入が見込めない美和・緒川・御前山地域の情報格差解消のため、ブロードバンド環境を整備するなど、情報基盤づくりを実施・推進しました。



▲千田地区に建設された鉄塔

情報セキュリティに関する操作能力の向上と情報のバリアフリー化

○市職員や教職員を対象に情報セキュリティ研修会を実施し、市民を対象にインターネットやメールの公民館講座を開催しました。

推進項目②

健全な財政基盤の確立

安定した行政運営を行えるよう財政運営の見直しを図り、企業誘致を積極的に推進するとともに、市税等の自主財源の確保に全力で取り組みました。

また、公債費負担が市の財政運営に支障を来すことが予想されることから、市債の発行を抑制しつつ効果的な財政運用に努めました。

●取り組み事項

自主財源の確保

○管理職による特別滞納整理や各課職員による一斉滞納整理を実施し、市税等の収納率の向上に努めました。

受益者負担の適正化

○合併により使用料金に相違のあった簡易水道使用料や農業集落排水施設使用料など、平成19年4月使用分から料金統一を行い、受益者負担の適正化を図りました。

企業誘致の推進

○宮の郷工業団地への企業誘致を積極的に推進した結果、4社が操業を開

始し、新たな雇用が創出されました。

未利用地等の処分による財源の確保

○遊休地等の利活用を検討や処分を行うとともに、販売中の市分譲地の販売を促進し、自主財源の確保に努めました。



▲美和地域の遊休地

○市の広告媒体を活用して、地域経済の活性化と新たな自主財源を確保するため、平成19年10月に常陸大宮市有料広告掲載要綱を制定し、広報紙や窓口用封筒などに有料広告を掲載しました。

中長期的展望に立った財政運営

○総合計画の策定に併せ、財政計画を策定し、中長期的展望に立った財政運営に努めました。

また、市債の発行額を償還元金内に抑制し、市債残高の縮小を図りました。

推進項目3

市民参加による協働のまちづくり

市民意識の早期醸成と地域コミュニティの活性化を図り、地域の特性に応じた市民志向の行政運営を行うため、市民と行政の役割分担を明確にして、市民参加による協働のまちづくりができる環境整備を推進しました。

●取り組み事項

自治組織の育成

○区長会で地域図を作成し、転入者や未加入者の区・班への加入促進を図りました。
また、区内の活性化を推進するため、情報交換会や行政懇談会を開催しました。

市民参加の推進

○各種計画の策定にあたっては、市民の意向を把握・分析し、政策へ反映させるため、パブリックコメントを実施し、市民と行政の協働を推進しました。

○市民のまちづくりに関する学習機会の拡充と市政への理解を深める

ため、まちづくり講座を開催しました。



▲まちづくり講座「常陸大宮市の行政改革」

市民・大学・行政の協働

○市民が専門的な講座を受講できるよう市民大学講座を開催し、市民・大学・行政の交流を推進しました。

この他「公正の確保と透明性の向上」の取り組みとして、情報公開の推進及び市民への情報提供、監査機能の強化など、積極的に推進してきました。なお、平成22年度の行政改革の取り組みによる効果額は下表のとおりです。

全国的な少子高齢化、地方分権の進展など、社会情勢は大きく変化していますが、今後も行政サービスを継続的かつ効率的に行い、市民と行政の役割を明確にしながら、「協働のまち」の実現に向けて、行政改革に取り組んでいく必要があります。

平成22年度行政改革取り組みの成果（効果額）

単位：千円

取り組み事項	効果額	説明
事務事業のコスト縮減	2,837	経常経費（時間外手当、旅費等）の削減額
	33,000	省エネ等による効果額
	13,320	積算システム、一括業務発注等による効果額
	2,063	公用車削減等による効果額
指定管理者制度の活用	10,101	管理運営コストの縮減額
受益者負担の適正化	12,400	徴収嘱託員による徴収額
職員数の削減及び定員適正化の推進	163,088	人件費削減額
自主財源の確保	69,870	税務徴収課職員による徴収額
未利用地等の処分による財源の確保	23,991	遊休地等の売却額
	2,193	分譲地の販売額
	748	有料広告掲載料
計	333,611	

問 い 合 わ せ

企画課 行政改革推進室 行政改革推進グループ ☎52-1111（内線323）

平成22年度常陸大宮市人事行政の運営等の状況の公表

常陸大宮市人事行政の運営等の状況の公表に関する条例（平成17年常陸大宮市条例第2号）第6条の規定に基づき、平成22年度の人事行政の運営等の状況について、次のとおり公表します。

1 職員の任免及び職員数に関する状況

(1) 職種別職員数の状況

(単位：人)

区 分	H22. 4. 1 現在	H23. 4. 1 現在	増減
一 般 行 政 職	429	422	▲ 7
医 療 職 (注1)	23	24	1
消 防 職	77	76	▲ 1
技能労務職(注2)	30	28	▲ 2
合 計	559	550	▲ 9

(注1) 医師、栄養士、保健師、看護師等をいいます。

(注2) 単純な労務に雇用される職員で、自動車運転手、技術員、調理手等をいいます。

(2) 採用者及び退職者数の状況

(単位：人)

区 分	H22. 4. 1 ～H23. 3. 31採用			H22. 4. 1 ～H23. 3. 31退職			
	大学卒	短大・高校卒	合計	定年	勸奨	その他(自己都合、死亡等)	合計
一般行政職	2	3	5	14	3	0	17
医 療 職	2	1	3	1	0	0	1
消 防 職	0	4	4	0	1	0	1
技能労務職	0	0	0	0	0	0	0
合 計	4	8	12	15	4	0	19

2 職員の給与の状況（平成23年4月1日現在）

(1) 平均給料月額、平均年齢の状況

区 分	平均給料月額	平均年齢
一般行政職	343,400円	45.8歳
技能労務職	299,500円	49.9歳

(2) 初任給の状況

区 分	大学卒	短大卒	高校卒
一般行政職	172,200円	152,800円	140,100円
消 防 職	197,200円	175,400円	158,100円
技能労務職	—	—	137,200円

(3) 経験年数別平均給料月額の状況

区 分	10年以上15年未満	15年以上20年未満	20年以上25年未満
一般行政職	大学卒 272,800円	307,800円	350,700円
	短大卒 265,400円	294,600円	316,400円
	高校卒 240,000円	279,500円	314,300円

(4) 主な職員手当の状況（平成22年度）

手 当 名	支 給 額 等
扶 養 手 当	扶養親族を有する職員に支給 配偶者 13,000円／月 配偶者以外 6,500円／月 扶養親族である満16歳から満22歳の年度末までの者は5,000円加算
住 居 手 当	借家等に居住し家賃を支払っている職員に支給 借家・借間、家賃の額に応じて27,000円を限度に支給（家賃12,000円を超える場合に限る）
通 勤 手 当	通勤距離が2 km以上の職員に支給 1 kmにつき600円（限度額24,500円）
時 間 外 勤 務 手 当	正規の勤務時間を超えて勤務した職員に支給 勤務日における時間外勤務1時間につき 当該職員の時間単価 × 1.25 週休日における時間外勤務1時間につき 当該職員の時間単価 × 1.35 午後10時から翌日の午前5時までの勤務の場合は、それぞれ0.25加算
特 殊 勤 務 手 当	著しく危険、不快、不健康または困難な勤務その他著しく特殊な勤務で、給与上特別の考慮を必要とする職員に支給 ・代表的な手当の例 ①市税等滞納差押業務手当 1回 300円 ②感染症防疫作業手当 1回 290円 ③救急業務出場特殊勤務手当（救急救命士） 1回 510円（一般隊員） 1回 300円

期 末 手 当	基準日（6月1日、12月1日）に在職する職員に支給 6月期 期末手当基礎額 × 1.25月分 12月期 期末手当基礎額 × 1.35月分 ※期末手当基礎額 給料月額 + 扶養手当 + 役職加算額 （役職加算額は、給料月額に役職に応じて5～15%を加算した額）		
勤 勉 手 当	基準日（6月1日、12月1日）に在職する職員に支給 6月期 勤勉手当基礎額 × 0.7月分 12月期 期末手当基礎額 × 0.65月分 ※勤勉手当基礎額 給料月額 + 役職加算額 （役職加算額は、給料月額に役職に応じて5～15%を加算した額）		
宿日直手当	宿日直勤務をした職員に支給 勤務1回につき 4,200円		
退 職 手 当	支 給 率	自己都合	勸奨・定年
	勤 続 2 0 年	23.5月分	30.55月分
	勤 続 2 5 年	33.5月分	41.34月分
	勤 続 3 5 年	47.5月分	59.28月分
	最 高 支 給 率	59.28月分	59.28月分
	その他の加算措置	定年前早期退職特例措置（50～59歳対象2～20%加算）	

（5）特別職の報酬等の状況

区 分	給料・議員報酬の月額		期末手当	
市 長	給 料	656,000円	6月期 1.4月分 12月期 1.5月分 計 2.9月分	
副 市 長		578,700円		
教 育 長		540,000円		
議 長	議員報酬	410,000円		
副 議 長		370,000円		
議 員		350,000円		

3 職員の勤務時間その他の勤務条件の状況（平成23年4月1日現在）

（1）勤務時間

勤務開始時間	勤務終了時間	休憩時間
8時30分	17時15分	12時から13時まで

※ 特別の勤務に従事する職員（保育所に勤務する職員等）については左記とは異なります。

（2）休暇

休暇の種類	休 暇 期 間 等
年 次 休 暇	1年間について20日。ただし、20日を限度に繰り越せる
療 養 休 暇	1年以内において、公務、私事による負傷または疾病のために療養する場合で、必要と認める期間
特 別 休 暇	選挙権の行使、結婚、出産等のほか特別の理由により勤務しないことが相当である場合
介 護 休 暇	配偶者、父母、子等の親族を負傷、疾病または老齢により、2週間以上にわたり介護する職員に対し、6月を限度に付与（無給）

特別休暇の主なもの

理 由	期 間
妊娠中の女子職員が妊娠嘔吐（つわり）のため勤務することが困難な場合	妊娠の期間中7日を超えない範囲
8週間（多胎妊娠の場合にあっては、14週間）以内に出産する予定である女子職員が申し出た場合	出産の日までの申し出た期間
職員が出産した場合	出産の日の翌日から8週間を経過する日までの期間
職員が生後満1年に達しない子を育てる場合	その都度必要と認める時間で1日2時間以内
忌引の場合	死亡者により1日から最大10日
職員が結婚する場合	7日を超えない範囲内で必要と認められる期間
職員の妻が出産する場合	出産予定日前16週間目に当たる日から出産の日後2週間以内に2日以内
小学校就学の始期に達するまでの子の看護のため勤務しないことが相当であると認められる場合	1年に5日以内 子が2人以上は10日以内

4 職員の分限及び懲戒処分の状況

(1) 分限処分の状況

処 分 事 由	降任	免職	休職	合計
勤務実績が良くない場合	0	0	0	0
心身の故障の場合	0	0	0	0
職に必要な的確性を欠く場合	0	0	0	0
職制、定数の改廃、予算の減少により廃職、過員を生じた場合	0	0	0	0
刑事事件に関し起訴された場合	0	0	0	0
合 計	0	0	0	0

(2) 懲戒処分の状況

処 分 事 由	戒告	減給	停職	免職	合計
法令に違反した場合	0	0	0	0	0
職務上の義務に違反したまたは職務を怠った場合	0	0	0	0	0
全体の奉仕者たるにふさわしくない非行のあった場合	0	0	0	0	0
合 計	0	0	0	0	0

5 職員のサービスの状況

(1) 育児休業承認状況

区 分	取得者数	承 認 期 間					
		6 月以下	6 月超え 1 年以下	1 年超え 1 年 6 月以下	1 年 6 月超え 2 年以下	2 年超え 2 年 6 月以下	2 年 6 月超え
男 性	0	0	0	0	0	0	0
女 性	5	3	0	1	1	0	0
計	5	3	0	1	1	0	0

(2) 介護休暇承認状況

新規承認者はいませんでした。

6 職員の研修の状況

職員に対する主な研修は「自治研修所」、「市単独」で行われているものです。

(単位:人)

区 分	研 修 名 また は 概 要		受講者数
階層別研修	新規採用職員課程	新規採用職員	2
	吏員第4部	概ね31歳から33歳までの非役付職員	10
	新任係長課程	係長に昇任した職員	10
	新任課長補佐課程	課長補佐級に昇任した職員	13
	新任課長課程	課長級に昇任した職員	15
	新任部長課程	部長級に昇任した職員	5
特 別 研 修	行政基本	地方自治講座、法制執務講座	7
	政策研究	政策形成基礎講座	2
	自己開発	自治行政セミナー、モチベーションアップ講座、クレーム対応能力向上講座、法務マスター研修、メンタルヘルス講座、管理職のためのメンタルヘルスセミナー	18
	派遣研修	茨城県実務研修、茨城県相互交流研修等	9

7 職員の福祉及び利益の保護の状況

(1) 厚生福利

○茨城県市町村職員共済組合

職員は茨城県市町村職員共済組合の組合員になっていて共済組合には次の事業があります。

事 業 名	事 業 概 要
短期給付事業	組合員とその家族の病気、けが、出産、死亡、休業または災害に対して必要な給付を行う。
長期給付事業	組合員の退職、障がいまたは死亡に対して年金または一時金の給付を行う。
福 祉 事 業	健康診断などの健康の保持増進事業、保養施設の運営、住宅資金の貸し付けなどを行う。

(2) 公務災害補償の状況

認定件数 0 件

8 公平委員会に係る業務の状況

勤務条件に関する措置の要求及び不利益処分に関する不服申立はありませんでした。

■ 問い合わせ ■ 総務課 職員グループ ☎52-1111 内線315

上郷道路愛護会、誠友会が茨城県知事表彰

8月10日、常陸大宮土木事務所において、道路ふれあい月間（8月1～31日）における道路里親団体への県知事表彰伝達式が行われました。

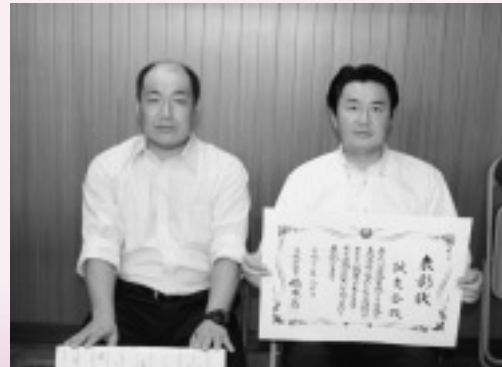
この表彰は、道路の美化活動に努め、その功績が特に顕著な団体に対して贈られるもので、上郷道路愛護会（成井文夫代表）と誠友会（砂川栄一会長）が受賞しました。

両団体は平成20年12月16日に道路里親に認定され、上郷道路愛護会は上檜沢下小川停車場線3.3km、誠友会は富岡地区の国道293号1.9kmの清掃や除草等の環境美化活動を行ってきました。

認定されて以降、活発に道路愛護活動を行い、道路環境の向上に大きく貢献していることが認められ、茨城県知事から感謝状が授与されました。



▲左から
上郷道路愛護会の益子さん、成井代表、平塚さん



▲左から
誠友会の山崎さん、砂川会長

人命救助の功績をたたえ 常陸大宮市消防長が感謝状を贈呈

常陸大宮市内の久慈川で発生した水難事故の際に、「迅速かつ的確な判断と勇敢な行動そして連係が尊い人命を救った」として、常陸大宮市消防長が4人の方に感謝状を贈りました。

水難事故は平成23年7月17日午前11時50分頃に山方神奉地で発生したもので、溺れた中学生と、助けようとして溺れた中学生の同行者を、浮輪やロープを使い救助しました。

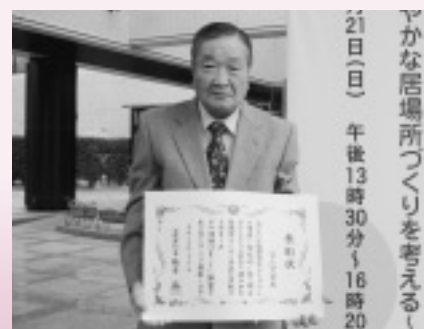


▲左から
高橋 雄紀さん（水戸市）、勝山 岳俊さん（那珂市）
根本 暁生さん（ひたちなか市）
欠席者：森井 和徳さん（つくば市）

放課後子どもプラン 推進功労者表彰

8月21日、ひたちなか市のワークプラザ勝田で茨城県放課後子どもプランフォーラムが開催されました。このフォーラムは、「放課後子どもプラン」が、放課後等の子どもたちの安全で健やかな居場所づくりを進めるため平成19年度にスタートして、今年で5年の節目を迎えるため開催されたものです。

フォーラムでは、これまでの事業の推進に功績のあった県内の関係者7人が放課後子どもプラン推進功労者として表彰を受け、市からは、村田小学校の放課後子ども教室の指導員として、現在も活躍されている富山忠道氏が受賞されました。



市役所の仕事を体験

8月上旬、大宮中学校と山方中学校の2年生が、市役所で職場体験学習を行いました。

この体験は、生徒が職場での体験を通して勤労の尊さや喜びを知り、将来の目的意識を高めることを目的として毎年夏休みに行われているものです。

生徒たちは、企画課・市民協働課・介護高齢課・山方総合支所・大賀保育所・山方保育所に分かれ、市民と直接顔を合わせる仕事や炎天下での作業などを体験しました。



▲介護高齢課で介護認定審査会の資料作りを体験

一日広報マン
直井くん

企画課情報・広報グループで広報紙作成の職場体験をしたのは、山方中学校の直井颯汰くん。

大賀保育所を訪ね、職場体験の様子をカメラで撮影し、原稿作成、パソコンでの編集作業を体験しました。



短い間でしたが、今回の職場体験は、自分自身を見つめ、自分の将来について考える機会となったようです。

また、8月4・5日には常陸大宮高等学校の2年生の職場体験（インターンシップ）も行われ、水道課・下水道課・歴史民俗資料館・緒川総合支所で市役所の仕事を体験しました。

この枠内は直井くんが取材・作成したものです

大賀保育所で職場体験

8月2日、大賀保育所で山方中学校2年生の中島くんが職場体験学習を行いました。

年長のクラスを担当した中島くんは、子どもたちの遊び相手をして一日を過ごしました。

「小さい子はちょっと苦手」と言っていました。とても子どもたちに好かれている様子で、笑顔で接していました。



塩田地区でそばの種まき

塩田ふるさと協議会（大貫孝夫会長）は、良質な農産物を生産している塩田地区のPRと食べ物大切さを多くの人に知ってもらうため「塩田そばの学校」の参加者を募集し、8月7日、そばの種まきを行いました。猛暑のなか、県内から39人が参加し、本格コースと体験コースに分かれ、地元農家の指導のもと、約25aの畑に「常陸秋そば」の種をまきました。秋にはそばの収穫を行います。



水生生物調査実施

8月18日、富岡橋上流の久慈川河川敷で水生生物調査が行われました。この催しは、市環境市民会議環境学習・広報部会が実施したもので、

市内の小学3年生以上の小学生など32人が参加しました。

調査は、茨城県環境アドバイザーの中村恵美子氏の指導のもと行われ、久慈川のきれいな水質を確認し、川がきれいであることの重要性について学びました。

また、調査後は、アクアワールド大洗水族館でバググヤードツアーに参加し、水族館の裏側から飼育状況を見学しました。



市民号

8月28日、市内の子どもたちを対象に水郡線を利用した「常陸大宮市民号」が実施され、141人の方が参加しました。

参加者は下小川・山方宿・野上原・玉川村・常陸大宮駅の5つの駅からそれぞれ乗車し、水戸駅へ向かい、

常磐線に乗り換えて目的地の上野動物園のある上野駅で降車しました。

市民号で水郡線を使ったスムーズな移動を体験し、普段使用することの少ない水郡線の利便性を体験することができました。



善意をありがとう

〈常陸大宮市へ〉



茨城県家庭婦人バレーボール連盟
(穂積徳子会長)
バレーボール用具一式

広報常陸大宮・ホームページ 掲載広告募集中！

広報紙 半枠(縦45mm×横 85mm): 9,000円/回
全枠(縦45mm×横175mm): 18,000円/回

* 詳しくはホームページをご覧ください。本庁企画課行政改革推進室(☎52-1111 内線323)までお問い合わせください。

URL <http://www.city.hitachiomiya.lg.jp/>

操法大会開催

8月28日、第7回常陸大宮市消防ポンプ操法競技大会が、辰ノ口のおみや消防広場で開催されました。

この大会は、消防団員の消防用機械器具操作の技術の向上と士気高揚を目的として行われているもので、2部門で競技が行われ、ポンプ車操法の部では御前山地域の第16分団が、小型ポンプ操法の部では美和地域の

第11分団が優勝を飾りました。

なお、優勝分団は10月9日に高萩市で行われる県北地区大会に市の代表として出場します。



▲第16分団



▲第11分団

大宮中学校校舎使用再開

東日本大震災により校舎が使えなくなった大宮中学校では、4月8日から、1、2年生は山方商業高校、3年生は常陸大宮高校で授業を行ってきましました。

夏休み期間中学校舎等の補強工事を実施。8月末に引っ越しを終え、9月1日から、全学年大宮中学校の校舎で授業を行っています。



▲9月1日大宮中学校へ登校する生徒



市民の方からの まちのできごと

東日本大震災の教訓を生かして

御前山小おやじ会

会長 星野 輝美さん(野口地区在住)

7月30・31日の2日間、御前山青少年旅行村で、緊急事態を生き抜く力をつけるため「親子で楽しく防災(災害避難)体験学習」を実施しました。

参加した68人は、食用油を利用したの非常用ローソク作りやアルミ缶と牛乳パックでご飯を炊くサバイバル飯炊き(サバメシ)のほか、火起こしなどを行いました。

実践的な学習に真剣に取り組むなか、31日の明け方に、震度5の地震が発生しましたが、誰もが慌てず落ち着いた行動ができ、防災意識の高揚の成果だと実感しました。



▲紙パックを燃料にサバイバル飯炊き



▲火起こしにチャレンジ!

常陸大宮市の早期復興を願って

8月14日、山方地域の旧山方エコス周辺広場で、常陸大宮市チャリティーイベントが開催されました。

この催しは、東日本大震災で被害を受けた常陸大宮市の早期復興を願い、NPO元気・山方(菊池和博代表)が企画したものです。

会場では、まきもちや神輿渡御のほか、歌謡ショーやものまねが催され、イベントの収益金と来場者から集められた義援金は常陸大宮市に寄付されました。



▲たくさんの人が集まったまきもち



SNSによるまちづくり

ネットショップ経営 倉田 稔之さん

インターネットの仕組みの1つ、SNS*（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）をご存知でしょうか？

最近のエジプトやチュニジアの政変は別名フェイスブック革命ともいわれています。それは、フェイスブックやツイッターなどのSNSが、民衆の声を素早く広げたからです。



SNSの紹介例としてはちょっと物騒。日本ではこんな事にはなりません、実はSNSは常陸大宮市とも無縁ではありません。

最近フェイスブックやツイッターの中に、常陸大宮市民が少しずつ増えて来ています。東日本大震災ではツイッターが大活躍。電話が通じないなか、水や食料やガソリンの情報をお互いに融通して共有しました。

ネットは便利な道具。その新しい道具を使った新しいスタイルの市民交流から、次の新しいまちづくりが生まれる予感がしています。

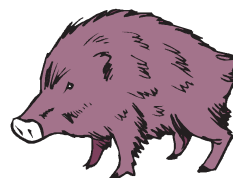
※人と人とのつながり促進・サポートするためのインターネットWEBサイト。フェイスブックやツイッターなどが有名。

有害鳥獣捕獲実施

市内全域で、農作物の被害防止対策として行っている平成23年度第1回目の有害鳥獣の捕獲が、5月8日から6月30日まで、有害鳥獣捕獲隊（河西敏夫隊長）50人により、実施されました。

捕獲結果は下表のとおりです。

種類	地域	大宮	山方	美和	緒川	御前山	合計
イノシシ		9	5	3	6	5	28
ハクビシン		2	0	0	1	1	4
カラス		13	11	4	1	0	29
カルガモ		23	31	13	6	9	82
タヌキ		0	0	1	1	0	2
カワウ		2	2	1	1	0	6



知って得する 消費者情報②

楽しくて通い詰め・・・健康食品に2,000万円！

健康に対する興味を利用して、高額な健康食品を現金や金券で販売する悪質な商法の情報提供が国民生活センターよりありました。注意しましょう。

《事例》

隣人に誘われ、健康の話をしてくれる期間限定の健康食品の店へ行った。そこで友だちもでき、楽しくて毎日のように通っていた。店長も優しく孫のようにかわいかったので、店長のためと思い健康食品を買い続けたが、「金券の方が得だから」と勧められ金券に切り替えた。これまで現金と金券を合わせて2,000万円分ほど購入した。

ポイント

空き店舗などを短期間の会場として使い、講習会などと称して人を集め、健康に関する情報提供をしながらサロンのような雰囲気を作り、最終的に高額な健康食品などを契約させる手口です。

一度通い始めると、店の楽しい雰囲気に夢中になったり、店員と親しくなったりして通い詰め、気づいたら大金をつぎ込んでいたということが少なくありません。「無料」「格安」などと勧誘されたり、知り合いに誘われたりしても、出向かないようにしましょう。

特典がつくからと大量に金券や商品券のまとめ買いを勧められ、後から現金に戻すように申し出てお応じしてくれない、という相談もあります。金券などのまとめ買いは避けましょう。

困った時は消費生活センターにご相談ください。

■茨城県消費生活センター

☎029-225-6445

■常陸大宮市消費生活センター

☎52-2185（直通）（本庁商工観光課内）

関東大会出場おめでとう！

7月、8月に行われた茨城県中学校総合体育大会で、みごと優勝を果たした大宮中のソフトボール部員と大宮中卓球部で個人の部ベスト8入賞の桑名芽依さん（3年生）、第3位の寺門春奈さん（1年生）が、大会の結果報告のため市役所を訪れ、記念としてメダルが贈られました。

なお、ソフトボール部と卓球部は8月に行われた関東大会に出場しました。



▲ソフトボール部の皆さん



▲左：寺門さん 右：桑名さん

リトルリーグ常陸大宮Aが初優勝！

7月23・24・30日、東日本銀行旗争奪第23回ナショナル茨城大会が開催されました。

大会には、県内のリトルリーグ20チームが参加し、熱戦が繰り広げられ、常陸大宮Aがみごと初優勝を飾りました。

8月、結果報告のため市役所を訪れた選手たちには、記念として楯が贈られました。



※今回贈られたメダルと楯は坂本忠夫前教育長から寄贈されたものです

第7回常陸大宮市長杯軟式野球大会

開催日：7月3・10・17日
主催：市野球連盟(塩澤實会長)
場所：大宮運動公園市民球場 他2会場
参加チーム：29チーム

優勝 ドリームス
準優勝 石澤クラブ
第3位 CLUBウイングス
御前山キャデラック



▲優勝したドリームスの皆さん

平成23年度 常陸大宮市中学生海外研修

～オーストラリアで学んだ8日間～



中学3年生を対象とする海外研修が8月17日から24日に実施されました。

この研修は、語学力の向上を図り、国際相互理解を深め、視野を広めることによって豊かな人材育成を目指すことを目的に、教育の一環として実施されています。

今年度の参加者は中学生60人、引率者8人の合計68人で、ハイスクールでの交流学习やホームステイ等、貴重な体験をしてきました。

◆全体テーマ

「Let's deepen the bonds of friendship,
and make wonderful memories.」

◆研 修 先

オーストラリア サザーランド市 他

◆研 修 内 容

- ①事前研修・結団式（4回）
- ②ハイスクールでの交流学习（3日間）
- ③ホームステイ（5泊6日）
- ④自然・異文化学習
- ⑤事後研修（2回）
- ⑥各中学校にて報告会



A 班

テーマ 「文化の違いについて学ぼう」



▲ヒースコートハイスクールの生徒と

B 班

テーマ 「Let's enjoy Australia and make
great memories.」



▲ポートハッキングハイスクールの生徒と

C 班

テーマ 「ホストファミリーと共にオーストラリアの自然や
文化を学ぼう～Let's speak English.～」



▲エンガディンハイスクールの生徒と

海外研修に参加して

5日間のホームステイをしましたが、初日は英語が聞き取れず、話を続けることができませんでした。しかし、だんだん難しい単語もジェスチャーを入れて伝えられるようになりました。また、ホストファミリーの方々が温かく迎えてくれたので、国や言葉が違って楽しく過ごすことができました。

大宮中学校 村上 結女

この研修を通して、僕たちはオーストラリアの文化を知り、多くの異文化体験をしてきました。そして、日本のよさを改めて知るよいきっかけとなりました。オーストラリアで過ごした日々は、僕たちにとって最高の宝物です。これらの体験をさせてくれた両親に感謝したいです。本当にありがとうございました。

御前山中学校 佐藤 凌太

人面付土器“いずみ”

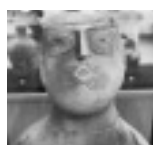
修復中！

①



▲解体前の“いずみ”

平成18年に行われた泉坂下遺跡の学術調査により発掘された、日本で最も大きい弥生時代の人面付土器は、今年度、財団法人朝日新聞文化財団よりの文化財保護助成を受けて、専門家による修復とレプリカ（複製品）の製作を行っています。“いずみ”の愛称で親しまれているこの人面付土器は、どのような手順や技術で修復され、レプリカが作られていくのでしょうか。今月から皆さんにお知らせしていきます。



（財）朝日新聞文化財団
文化財保護助成

「芸術・学術的に価値のある文化財並びに歴史遺産の保存・修復・公開活用等」に対して助成されます。泉坂下遺跡の保存状態が良好で、謎の多い弥生時代の東日本を研究する上で重要であること、また、適正な発掘調査によって出土した人面付土器が、国指定レベルの歴史的・芸術的価値のある文化財であることから、“いずみ”の修復とレプリカの製作に対して今年度助成が認められました。



修復前の“いずみ”

土器のほとんどは割れた状態で出土します。破片を洗い、元の形になるよう市販の接着剤で接合してから、実測図を描いて細かく観察し、写真撮影を行います。しかし、観察しやすいようにと隙間の補強も施していないので、このままの状態では実測等に耐えられる程度の強度しかなく、地震などの災害や長期間の展示、貸し出しに伴う運搬によって壊れてしまう危険がありました。

“いずみ”解体



修復専門家の工房では、まず、溶剤で接着剤を溶かしながら慎重に解体し、番号を付けて元のバラバラな破片状態にしてしまいます。その後、一つ一つの破片を観察して、残っている接着剤や汚れを取り除きます。しかし、土器を作った時の彩色や、使用によって付着した煤（すす）やおこげは落とさないように注意します。“いずみ”は約2カ月かけて85個、総重量6858gの破片に解体されました。

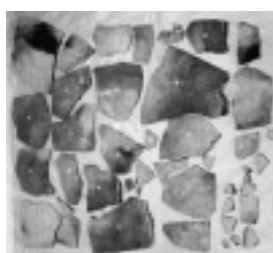
破片の破断面を強化



クリーニングが完了した破片には、将来の再修復も見据え、表面よりもうい破断面（割れ口）を強化するために、取り除くことのできる樹脂を浸み込ませます。8月上旬現在、大小85個の破片の割れ口すべてに細筆で樹脂を塗り、乾燥させる作業を行っています。次回、プロの接合の様子を報告します。



▲樹脂を塗る作業



▲解体された“いずみ”



写真提供：府中工房
堀江武史氏

作業工程

解体・クリーニング

8月上旬

接合

充てん

補彩

レプリカ製作

ふるさと見て歩き

第59回

庚申塚

◆庚申塚と十三塚



▲庚申塚

宿になって、床の間に青面金剛や文字の書かれた掛軸を掛け、夜通し飲食をしながら歓談をしました。青面金剛は庚申信仰の本尊として室町時代以降、石仏、木造仏、掛軸などが作られるようになり、江戸時代には庚申信仰が大流行しました。娯楽の少ない時代にあつては楽しみなイベントだったことでしょう。



▲青面金剛（参考）

山方の「ケビン村」の中に江戸時代の石仏が祀られている小高い塚があるのをご存知でしょうか。中央に庚申塚が二基あり、他に二十三夜塔や如意輪観音など八基が祀られていて、地元ではこの塚を「庚申塚」と呼んでいます。

庚申塚は庚申信仰の対象として建てられました。庚申信仰は、六十日に一度回ってくる庚申の日に、人が寝ている間に体から出て、その人の悪行を天帝に告げ口する三尸の虫が体から出て行かないように寝ずに過ごす行事です。人は悪行を知られると寿命が短くされてしまうと信じられていたため、庚申講を行うことは延命長寿祈願につながるものでした。大抵は講を組織する人が順番に

庚申塚にある庚申塔は安永六年（一七七七）と天明八年（一七八八）のもので、青面金剛の像容ではなく文字を刻んだものです。ところでこの塚、もともとあつた塚を庚申塔を建てるために再利用したもののらしいのです。

当初は、南皆沢古墳群の一つと考えられていましたが、十三塚の一つである可能性が出てきました。庚申塚から南方向に一列に並んで、高さ一メートルにも満たない小さな塚が確認されます。林の中なので確認は難しいですが、ほぼ等間隔に十個余りの塚らしい形状が残っています。

十三塚とは、民間信仰に基づくといわれる構築物で、中世（十二世紀から十六世紀頃）以降に多く造られ

ました。十三の仏を祀っている、とか十三人の死者を埋めた物、などといわれますが諸説あり、はっきりしたことは分かっていません。



▲十三塚と思われる塚

◆破損した庚申塔の修復

三月十一日の大地震で天明八年の庚申塔が倒壊し、他の石造物は最小限の破損で済んだものの、位置が大きくずれたり転倒したりする被害がありました。



▲倒壊した庚申塔

倒壊した庚申塔は台座から後ろに倒れたため、石碑が二つに割れてしまいました。また、凝灰岩質のもろい石材のため、刻銘のある表面が剥離してしまいました。

剥離した石の破片が失われてしまうことや安全確保の観点から、六月には庚申塚のすべての石造物を元の位置に戻しました。そして七月には割れてしまった庚申塔と二十三夜塔をエポキシ樹脂で接着しました。石材や建物の修繕に活躍するセメントやモルタルは、塩が出て石碑に悪影響を及ぼす可能性があることから、文化財修復には不向きなのです。また、接着面と石碑と間に隙間が空いてしまうと、そこが、割れや剥離の原因となるので、筑波大学大学院の松井敏也准教授のご指導のもと、樹脂に粉碎した岩を混ぜて「擬岩」を作り、充てん作業を行いました。擬岩には通水性があり、割れやすくなることを防ぎます。現在も作業は継続中です。



▲接着・充てん作業の様子

歴史民俗資料館大宮館

☎ 52-11450

緊急消防援助隊 (Emergency Fire Response Teams)

「All for one」

使命は守ること。そして一つの命を守ること。
将来多くの可能性を持つ尊い「生命」。
消防は「命を守る」という使命に全力で立ち向かいます。
普段は地域住民のために、消防活動続ける部隊。しかし、
いざ、大災害が発生すると全国の部隊が一致団結して、国民の命を守ります。

国民の生命・身体・財産を守ることを任務とする消防本部は、法律に基づき、原則として、市町村単位で運営され、防災の啓蒙活動や災害現場活動など、住民の「安全・安心」を守っていますが、大規模災害や特殊な災害が発生した場合、被災地の消防本部だけでは対応できません。そんな時、被災地の要請を受け全国の消防本部から応援部隊が駆けつけます。これが「緊急消防援助隊」です。

地域を越えた消火・救助活動等を実施します。緊急消防援助隊は、阪神・淡路大震災の教訓を踏まえ誕生し、車両、資機材などの整備が進められています。

東日本大震災では、3月11日から6月6日までの88日間で、全国から被災地へ派遣された人員は28,620人、延べ人員にすると104,093人が出動し活動を行い、茨城県にも、神奈川県隊や埼玉県隊等が駆けつけてくれました。

当市消防本部も消火部隊（水槽付消防ポンプ車）1隊、救急部隊（高規格救急車）1隊の2隊が緊急消防援助隊として登録されていて、茨城県隊として、2度にわたり福島県へ出動しました。

また、万が一、当市で大規模災害が発生し、当市の消防力だけでは対処できない時にも、県内の消防本部をはじめ各都道府県の消防本部から緊急消防援助隊が駆けつけることになります。



▲登録されている消防ポンプ車と
福島県へ出動した救急車



▲福島県消防学校に全国から出動してきた救急車両等



紙を可燃ごみとして捨てていませんか？

新聞、雑誌、ダンボールなどのほか、紙類はリサイクルできる大切な資源です。

しかし、皆様のご家庭から出される可燃ごみの中には、まだ多くの紙が含まれていて、その多くは「雑がみ」として紙類の日に出すことでリサイクルができます。

大切な資源として有効活用するために、皆様のご協力をお願いします。

雑がみって？



菓子箱等



包装紙



レシート



トイレットペーパー等の芯

出し方

雑がみを分別し、紙袋に入れるか雑誌類にはさみます



雑がみが出ないようにひもで縛ります



紙の収集日に集積所へ出します



注意！

汚れや臭いがついた紙やカーボン・ノーカーボン紙、金属が箔押しされた紙は紙として出せません！はがき、料金明細など個人情報を含むものは可燃ごみとして出しても構いません。

健康

通信

常陸大宮済生会病院

小児科医長

松本 静子先生

「鼻汁の色に違いがあるのは何故？」

鼻汁は外来を受診する小児の症状として非常にありふれたものです。その性状は、透明なサラサラしたものからドロドロした色つきのものまで様々です。

鼻汁が出る病気の原因としては3歳以下では急性上気道炎、副鼻腔炎が多く、3歳以上になると感染に加えて、アレルギー性鼻炎の割合も増えてきます。

風邪は何種類かのウイルスの感染で起こりますが、ウイルスが鼻の粘膜に侵入すると、炎症が起こり血管から血液の水成分が漏れ出てきます。これが、風邪の初期にみられる「水ばな」です。

感染が進行している状態の時には「水ばな」が見られません。また、アレルギー性鼻炎の時にも同じような鼻汁が見られるので、くしゃみを伴ったりするかどうかなどの症状で見分けたりします。細菌感染を合併すると、鼻汁の中で細菌が増殖して、細菌や炎症反応の後の白血球や鼻粘膜の一部が混じって白色や黄色、青色の鼻汁に変化します。黄色の鼻汁は、培養すると黄色ブドウ球菌が検出される事が多くあります。やがて、感染が落ち着いてくると、鼻汁の中のムチンという成分が増えて、鼻汁はドロドロとしたものに変化していきます。しかしながら、鼻汁の色だけで病気を診断するのは難しい事です。

外来では鼻汁の色に加えて臨床症状や培養検査の結果などから診断をしています。初期の風邪は安静にして体を暖かくするなどしていれば自然に良くなっていくことがほとんどです。しかし、鼻の奥の副鼻腔に細菌感染が広がり副鼻腔炎を起こしたり、中耳炎を併発したりする事もあります。長引く症状がある時や、頭痛や顔面の痛みを伴う時には検査をした上で適切な抗生物質を使用して治療することが必要です。



ひたまるがゆく

偕楽園公園四季の原広場で常陸大宮市をPR、
そしてイバライガーさんにも会いました！

皆さんは時空戦士イバライガーさんを知っていますか？イバライガーさんは平成19年に誕生した茨城県のご当地ヒーローで、茨城を悪者から守ってくれています。ひたまるはこの日、正義の味方のイバライガーさんに会えるのをとても楽しみにしていました。

イバライガーさんは動きがきびきびしてとてもカッコいい！動きは真似できないけれど、ポーズだけ真似してみました。どうです？きまってるでしょ？

※写真左はイバライガーさん、右はイバライガーブラックさん。
後ろにちょっっと見えるのはミニライガーと子ジャーク



常陸大宮市の 元気っ子 が サマーキャンプ



8月22日から25日まで3泊4日の日程で、緒川地域のやすらぎの里公園を主会場として、「元気っ子・サマーキャンプ」が行われました。

参加したのは市内の小学5年生28人（男22人・女6人）で、ウォークラリーや木工教室、そば打ち体験やネイチャーゲーム*など、盛りだくさんのプログラムを楽しみました。

天候にあまり恵まれず、キャンプファイヤーなど実施できなかったプログラムもありましたが、子どもたちは元気よくたくさんの方にチャレンジしました。

初日の夕方はカレー作りにも挑戦。協力して作ったカレーのおいしさは格別だったようで、キャンプ終了後の感想では「カレーがとてもおいしくできた」との声が多く寄せられました。

※自然を五感（視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚）で感じ、心と体で直接体験し、自然と自分が一体であることに気づくことを目的とするゲーム。

広報 常陸大宮 9月 第84号

発行日 平成23年9月26日

発行／常陸大宮市

編集／企画課

〒319-2292

茨城県常陸大宮市中富町3135-6

TEL 0295(52)1111 FAX 0295(53)6010

E-mail email@city.hitachiomiya.lg.jp

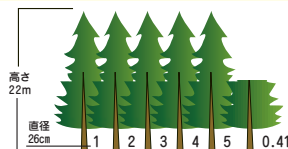
URL http://www.city.hitachiomiya.lg.jp/



常陸大宮市の人口（9月1日現在・推計常住者）

総人口44,627人 世帯数16,116世帯

この印刷物は、常陸大宮市役所が、印刷プロセスで使用する7.39kgのアルミ板をリユースして印刷する事で、
CO2排出量を75.42kg削減しました。



75.42kgのCO2削減量とは
樹齢50年(高さ22m・直径26cm)の杉の木約5.41本分が
1年間に吸収するCO2量に匹敵します。

(出典：林業白書)

常陸大宮市役所は、MCPによる印刷を通じ、インドネシア・バリ州の森林再生事業(国立公園内の植樹3,000本)に参加しています。